

竹馬会情報紙

ホームページアドレス
http://www9.ocn.ne.jp/~cihkuba

はずみ



竹馬会キャラクター
なべムシ君

27 大分県版 2003年(平成15年)5月24日 土曜日

おおいた WIDE

本日(24日) 付け西日本新聞朝刊で

竹馬会の新会長 川野正弘 紹介

田植えが一段落するこの時期、三光村佐知の水田では、田んぼをコート代わりにボールを追う恒例の「泥田バレーボール大会」が行われる。県内はじめ、九州各地や山口県などからも参加、泥にまみれて童心に帰る。十五回目となる今年は六月一日に開かれ、六十チーム(一チーム六人)が出場する予定だ。

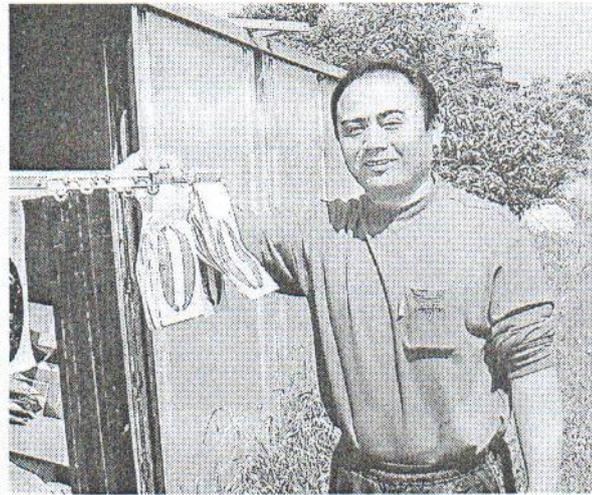
農業大切に。

泥田バレーで広めたい

「開会式には、それぞれが趣向を凝らした衣装で登場し、プレーが始まると一瞬で頭のとっぺんからつま先まで土色になる。このギャップがたまりません」

三光村の住民団体「竹馬会」会長

かわの まさひろ
川野 正弘さん



泥田バレーは佐知地区の住民六十人でつくる「竹馬会」が主催。川野だ一九八八年に「減反田」は七代目の会長だ。の活用とむらおこしを」

から大型ショッピングセンター近くに限られる。合所有の大型機械で行うだが、田んぼがなければ泥田バレーだってできる。「バレーと同じように集団の力でムラを守りたい」。四十二歳。

と始めた。当時、参加チーム数は二十だった。回数を重ねた泥田バレーだが、事務方の苦勞は少なくない。会場となる休耕田の手配、水を張ってトラクターを入れる。参加者が泥を洗い流せるよう温水シャワーも準備、会場は駐車場の関係と始めた。当時、参加チーム数は二十だった。回数を重ねた泥田バレーだが、事務方の苦勞は少なくない。会場となる休耕田の手配、水を張ってトラクターを入れる。参加者が泥を洗い流せるよう温水シャワーも準備、会場は駐車場の関係

ひと